

岡崎の体育教師として

岡崎市立美川中学校 野田 豊

私にとって教員生活最後となる年に起きたまさかの事態、新型コロナウイルス感染症の流行。感染拡大に伴う二度の緊急事態宣言の発令、臨時休業、県外移動の自粛、部活動の大会中止など、皆同じだと思いますが、思うような活動ができない、何とももどかしい一年となりました。

体育部の先生方へメッセージをとの依頼がありましたので、どこまでの成果があったか疑問ではありますが、ここまで自分が大切にしてきた思いを少し書かせていただきます。

I 子供への指導

いくら理論を勉強しても、自転車に乗れるようにはなりません。逆に一度体得すれば、乗れなくなることはまずありません。私は体育の授業は、思い切り活動する中で「できた」という経験をたくさんさせ、運動の楽しさを味わわせること。その上で、技能を体得させることが大切であると思います。子供たちが、じっと止まっている時間を無くすにはどうしたらいいのか、無駄なく活動を進めるにはどうしたらいいのか、そこに力を注いできました。

部活動指導についてです。目標は、自分の今の状態より少し高いところに設定しなければ進歩はありません。達成するためには、当然、苦痛や苦悩が付いてきます。それらを乗り越えて「やり切った」という経験が、その後の人生で壁に直面した時、大きな自信となり、勇気を与えてくれると思います。あきらめずに、困難を自分で乗り切る力をつけてほしいと願いながら指導してきました。

II 体育教師としての志

若い頃、先輩から「行事に対する準備が面倒になったら体育教師として終わり」と言われたことがあります。体育的行事を運営するには、効率よく、最大の効果が上がるように知恵を出し、知恵を借り、自らが労を惜しまず動くことが大切です。そして時に、決断力強く、大胆に突き進むことが。そんな思いをもって、努力しました。

また、体育的行事では、体育部以外の先生方に役割分担をお願いすることになります。さらに体育教師は、生徒指導や多数の子供を動かす役割を担うことが多々あります。自分の指導技術を高める努力をすることはもちろんですが、周りの先生方に助けていただかなければなりません。自分たちが必要な時だけお願いするのではなく、日頃から周りの先生方の手助けをする気配りや実際に行動することが大切であると思います。自校の先生たちが、気持ちよく助け合える雰囲気作り、組織作りを意識してきました。

次は、教員生活の後半、自分に言い聞かせ、仲間にも伝えてきたことです。

若い時は、経験のないことで皆に助けられています。

中堅の時は、自分が何でもできると錯覚し、皆に助けられています。

年を取ると動きが遅くなり、ガッツがなくなり、皆に助けられています。

逆になるように努力を！

若いときは、動きの良さ、元気の良さで、皆を助けたい。

中堅の時は、周りの意見に耳を傾けながら、皆を力強く牽引したい。

年を取ったら、これまでの経験を生かし、知恵を出して皆を助けたい。

今、教員の働き方改革は待ったなしです。とても大きな改革です。これまでの指導法や考え方から大きく脱却しなければならないことがたくさんあります。これから、岡崎の体育の先輩方が築いてこられた財産をぜひ大切にしながら、新たな実践を積み上げてください、岡崎市体育部の先生方の活躍をお祈りしています。お世話になりました。ありがとうございました。

今号は、この春ご退職される

体育部長 美川中学校 校長 野田 豊 先生

にお言葉をいただきました。野田先生は、岡崎の体育に多大な功績を残され、私たちの目指すべき道をいつも照らしていただきました。感謝の言葉は尽きません。

長い間、本当にありがとうございました。